

希望と笑顔があふれる屋久島町の創造

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

心新たに希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は屋久島町が発足して10周年、そして縄文杉が発見されて50周年という本町にとりまして記念すべき年であり、更に11月の天皇・皇后両陛下の行幸啓が、この記念すべき年に行われたということは大変ありがたいこととございました。町民の皆様をはじめ各関係団体の皆様には、こうした一連のイベントや日頃の町政推進に対し、変わらぬご支援とご協力を賜りましたことに心から感謝を申し上げたいと思います。

屋久島町町制施行10周年を振り返りますと、数えきれない喜びや試練がありました。今振り返って思うことは、10年を掛けて町民の融和が随分と進み、みんなが手を携えて屋久島町を創っていくという気運が町民の中に醸成されたことが一番の喜びであります。町政を運営していく上では様々な場面において賛否両論ありますが、町政推進の基本は将来の屋久島町のためにベストな選択は何かということを真剣に議論する中から見つけ出すことにあると思います。

今後においても独断専行ではなく、町民の皆様に広く意見を求めて参りたいと思います。

10月に開催した記念式典においては、町内の児童・生徒がそれぞれの立場を代表して、吹奏楽の演奏や屋久島憲章の朗唱、活動報告や意見発表を披露していただき、町政推進にご功績のあった方々の表彰や、記念講演、歌の祭典を行いました。台風接近であいにくの天候でありましたが、「雨もまた屋久島」とポジティブに捉えて、この節目を機会に、更に町勢発展のため精進して行きたいと考えています。

その将来へ向けた第一歩として、現在、役場新庁舎を平成31年度の完成目指して建設中であります。建設現場の沿道を通る際に目に見えて進捗状況も分かるようになって参りました。庁舎問題は平成の大合併を経験した多くの自治体が直面しており、本町においても私が町長就任当初から自らに課した町政の最重要な課題の一つであります。地方自治体にとりまして、本庁舎に行政機能を集約し、能率的で機動性に富んだ行政推進を目指すことは、至極当然のこととありますし、職員が分散し業務の非効率的な状況を解消するため、行政組織機構の見直しを並行しながら行財政のスリム化を図って参りたいと思います。

更に、新庁舎は地元産の木材をふんだんに使用した構造を採用し、屋久島を象徴する木造建築物と位置付けるものであります。屋久島では戦後植林された杉が伐期を迎えており、国産の杉材の中でも強度に優れ、強い芳香による防虫効果が高いという品質の高さをPRして、かつて隆盛を誇った地元林業の復活につなげて行きたいと考えております。

町民の生活に欠かすことのできない航路・航空路に関する整備については、昨年4月から施行された有人国境離島特別措置法により、運賃や物流コストの低廉化等が図られ、島に暮らす私たちにとって非常にありがたい制度が運用開始されました。私は、昨年5月から全国離島振興協議会の会長に就任し、この法律に一番意見が言える立場になりましたので、離島本土間の活発な交流人口によって経済効果が一層高まるよう、島への入り込み客にも制度の適用を求めるなど、更に充実した制度内容を目指して粘り強く活動して参ります。

地方の時代と言われながらも、都市圏への人口流出や押し寄せる少子高齢化の波は、地方の市町村にとって存続に関わる大きな問題であります。それぞれの自治体が今置かれている現状に真摯に向き合い、状況に応じた地域振興に努めていく必要があります。幸いにして、屋久島町は先人達から引き継いだこの素晴らしい自然環境によって、地域ブランド調査 2017 市区町村ランキングにおいて魅力度第 10 位という栄誉をいただきました。我が町が日本全国から想像している以上に高い評価を得ているということを実感し、このような評価に値する島づくり、地域づくりができていないか否かを常に自問自答しながら、屋久島と口永良部島が持っている潜在的優位性を引き出すことのできる政策の実現にまい進していきたいと思います。希望と笑顔があふれる屋久島町の創造のため、固い信念を胸に秘めて力強く突き進む決意でありますので、引続き町民の皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が町民の皆様にとって健康で幸せな一年となりますよう、ご祈念申し上げまして年頭にあたりご挨拶といたします。